



井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

31号
2016年11・12月号

2016年(平成28年)11月1日

●編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 発行
電 話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと6か月

連載絵本 子狸ボン太の巻 その4

玉川上水でタヌキを見た犬の飼い主達
は、「あんな野生動物は市役所に連絡
しましょう。」「イヤ保健所だ」と大
変な騒ぎになりました。ボン太親子が
どこに逃げようかと困っていると、アオ
サギ爺さんが「弁天様が呼んでくれて
いるよ」と知らせしてくれました。ボン
太達は弁天様のもとでゆっくり休むこ
とができました。

絵せのうさぎこ 文瀬能けい子

せのうさぎこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。
アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。
瀬能けい子さんは母親。

INFORMATION 2016年11~12月

井の頭自然文化園

●特設展「アジアゾウはな子の69年」
5月26日に死亡したアジアゾウ
はな子の歴史を振り返る特設展。
会期を延長しました。

- 会期：2016年12月28日まで
- 場所：動物園(本園) 資料館1階

●第46回 野鳥の巣箱コンクール受賞作品展
東京都環境局主催の野鳥の巣箱コンクールの
受賞作品を展示します。
力作ぞろいの巣箱をご覧ください。

- 会期：2016年11月15日(火)~11月27日(日)
- 場所：動物園(本園) 野鳥の森

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

井の頭恩賜公園

【ネイチャー☆プログラム】次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく
楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- ツリマジック(第二公園) 11月5日(土) 12月23日(金・祝)
- あおぞら実験室(井の頭池付近) 11月6日(日) 12月4日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 11月13日(日) 11月27日(日)
12月11日(日) 12月25日(日)
- どんぐり広場(三角広場) 11月15日(火) 12月7日(水)
- ザ・忍者(三角広場) 11月23日(水・祝)

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html> に載せます。

井の頭かんざつ会

- 第139回「落ち葉」 11月27日(日) 10:00~12:00
- 第140回「土壌生物」 12月18日(日) 日中(時刻未定)

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

募集

井の頭公園の
古い写真を集めています

◀戦前の井の頭池の茶屋
写真：徳田東助氏

2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を
伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、
写真集に掲載しても良い方はご一報願います。

なお、お借りした写真は、スキャン後、速やかにご返却いたします。また、
謝礼として、完成した写真集を謹呈いたします。

お問い合わせ ぶんしん出版 ☎0422-60-2211 (担当：宮川)
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

1級波渡安浩 のいのけん受験講座答え合わせ

Q1 ③ Q2 ① Q3 ②

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その11



休園日の月曜。お客さんがいないからこそ、しなければならない作業で飼
育員は大忙しです。モルモット担当の堀井葉子さんは、200頭余りを1頭ず
つ手に取り、毛をかき分けながら体調をチェックします。

「肌がカサカサしていないかを見ている。真菌による皮膚炎、人間でいう
ところの水虫にモルモットもなるんです。足が短くて蒸れるせいでしょうか、
足の付け根はとくによく見ます」と堀井さん。皮膚炎のモルモットは他とは分
けておき、薬を塗って治療。元気なモルモットだけを「ふれあいコーナー」に
集めます。

群れを好み、くつきあっているモルモットは、声によるコミュニケーション
が密。えさがほしいときは「キューキュー」、人間の咳払いなど普段聞かない
音がすると、警戒して「グルグルル」と鳴き合います。

「小さな子どもにとって、ふれあいコーナーは『動物という存在との出会い
の場』です。それまで絵本やぬいぐるみでしか知らなかった動物が、実際に
動いている。どうすると喜ぶのか、嫌がるのか、相手の気持ちになることを
学びます。私たちはそれをサポートする役割。ここで楽しく触れ合って、動
物好きな子に育ってほしい、というのが堀井さんの願いです。もちろん、「触
た後は手を洗ってくださいね」。

小田原 凛 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

* はな子の記録と記憶を残す2つの取り組み *

はな子が亡くなって、約5か月が過ぎました。アジアゾウ舎には、まだ献花
をしていられるお客様もいて、まだまだ皆さんの記憶の中しっかりと刻み
込まれているのだと感じる日々です。

井の頭自然文化園と吉祥寺美術館では、そんなはな子の記憶をしっかり
と残すため、「はな子の記録と記憶を集める」事業を実施しています。

詳しくは、吉祥寺美術館または、東京動物園協会
(<http://www.tokyo-zoo.net/>)のホームページをご覧ください。

また、武蔵野市や当園などでつくる「吉祥寺「はな子」像設置実行委員会」
では、はな子の銅像を作る募金活動を始めています。2017年5月頃に吉祥
寺駅北口に設置し、街のシンボルとして記憶に残す取り組みです。こちらの
募金は井の頭自然文化園でも受け付けていますし、ホームページ
(<http://hanako-bokin.jp/>)でも可能です。

はな子の特設展も12月末まで実施中です。はな子の生涯を知り、そして、
記憶を残す取り組みに、ぜひご協力ください

井の頭自然文化園 教育普及係 大橋直哉

その31
井の頭公園の生き物たち
アカシデ



高齢木の魅力と悩み

アカシデとイヌシデは御殿山の雑木林に多い高木です。ソ
ロノキと総称されたそうで、昔はその名札が付いていました。
シデとは、枝から垂れ下がる果実の房を、しめ縄などに垂ら
す四手に見立てたものです。果実には小さな苞葉があり、風
に運ばれます。同じく雑木林を構成するコナラやクヌギなど
と比べて、葉が薄くて小さく、樹形もより自在なので、雑木
林に明るく軽やかな雰囲気をもたらします。イヌシデは芽吹
きが黄緑色ですが、アカシデはその名の通り赤色を帯びます。
晩秋には、上の写真のように、アカシデは紅葉し、イヌシデ

移動の季節になり、井の頭池にカイツ
ブリが増えています。10月17日に数え
たら9羽いました。定住している成鳥、ふ
た月半も経つのに親離れしない幼鳥、戻っ
てきた成鳥や若鳥、新たにやって来たも
のなど、様々なようです。10月になって、
カップルが鳴き交わすようになりました。
3ペアを確認しています。立派な巣を作っ
て仲良くしているペアもいます。そうい
うペアは自分たちの縄張りから他のカイツ
ブリを追い払います。

井の頭池では記録がなかったハジロカ
イツブリが10月10日に姿を見せました。
すくなくいなくなると思っていたのに、10
月18日現在もこの池で暮らしています。
カイツブリより少し大きいのに、ペアに
激しく追われて逃げ回っています。先日
は頭を噛みつかれていました。それでも
ハジロカイツブリが井の頭池に留まって
いるわけは、そ
してカイツブリ
たちが多数集
まっている理由
も、水中を見れ
ば分かります。
彼らの餌になる
小魚がとても豊
富なのです。



井の頭かんざつ会 田中 利秋 <http://tnt-lab.eco.coocan.jp>

は黄葉します。アカシデのさらなる魅力は、幹が太くなるにつ
れて複雑に隆起し、彫刻のように芸術的になることでしょう。
幹も枝ぶりも、年を重ねるほど趣が増します。

じつは、左の写真は12年前のもので、このような自在な
枝ぶりは、残念ながら今はあまり見られません。アカシデに限
らず、高齢な木を元気な太い枝でバッサリ切ってその先の枝を
減らす強剪定が行われているからです。毎年新枝を出して生長
し、日が当たらなくなった下方の枝は枯れて風などで落ちる、
というのが樹木の正常なサイクルなのですが、多くの人がある
下を通る公園では許されません。細い枝を毎年丁寧に剪定する
のは、木が多すぎて無理があります。強剪定された木は、生き
残ろうと、残った枝や幹から細枝をたくさん出し、多数の葉を
付けます。樹形が悪くなるだけでなく、樹勢が衰えて枯れてし
まう木も少なくありません。

昔は、許可された農家が御殿山の雑木林を10年ほどの間隔
で薪炭用に伐採していたため、木々が若く保たれていたそう
です。今後も、来園者が通る場所の
木々は太くなりすぎる前に更新さ
せるべきだと思います。木が細けれ
ばコストが安くて済みます。一方、
雑木林の趣や生き物の暮らしのた
めに、立ち入り禁止の場所には樹
齢を重ねた大木を残してほしいも
のです。多様な環境は多様な生き
物を育みます。



アカシデの幹

31
離れがたい池

♪楽園はよみがえるか!
カイツブリ通舎
「楽しい水に泳がせたい」

カイツブリは、得意の
潜水で小魚やエビを捕ま
える。小さな水鳥です。
池や川にカップルで縄張
りを作って暮らし、子育て
をします。

玉川上水と緑道は、昔の人たちからの贈り物

三鷹駅の方から東南方向に流れ、井の頭恩賜公園の中を南寄りにつづいていく小川があります。江戸時代に人工的に作られた玉川上水です。かつては「人喰い川」と呼ばれるほどの水量と勢いがありました。今は川底をひたすほどの水が流れるだけです。周囲の木立の紅葉や冬枯れを愛でながら、歴史を辿ってみませんか。



▲「小鳥の森」の脇にある水神の祠。かつて農業用水として分水していた名残。



▲ 川に沿った緑道は、土の地面。剪定された枝のチップが敷かれていて快適に歩けます。

徳川家康が江戸幕府を開いてから、江戸の人口は爆発的に増えました。そこで問題になったのが、飲み水でした。当時はまだ海だった日比谷、日本橋、京橋、築地の辺りを埋め立てて町を広げたため、井戸水は塩気混じりで飲めなかったのです。まずは、井の頭池を水源とする神田上水が整備されました。しかし程なく再び水は不足し、幕府は庄右衛門と清右衛門という兄弟に新しい上水を造らせました。多摩川中流の羽村から四谷大木戸に至る約43キロメートルの玉川上水です。

現代のように精密な計測機器も馬力のある重機もない時代でしたが、承応2（1653）年4月の着工で、11月の完成という驚異的なスピードでした。起点から終点まで標高差わずか92mでもスムーズに水が流れるよう、自然の勾配を最大限に生かした上水が出来上がりました。玉川上水は、明治時代に近代水道の整備にあたって淀橋浄水場が造られてからも、導水路としてそのまま使われていましたが、昭和40（1965）年の淀橋浄水場の廃止後は通水されなくなり、暗渠化される場所も出てきました。三鷹・武蔵野地域でも暗渠化や駐輪場化が計画され、それに対して盛んになったのが地元の人たちの保護運動でした。その結果、昭和61（1986）年に東京都の「清流復活事業」で水流が戻され、平成11（1999）年には東京都の歴史環境保全地域に指定され、平成15（2003）年には国の史跡にも指定されました。こうして、水の流れと美しい緑の散歩道が、私たちに残されているのです。

安田知代

安田知代（やすだちよこ）
編集者・ライター。「井の頭公園*まるごとガイドブック」「懐かしの五福寺 昭和40・41年 編者」

私と井の頭公園 その31

江戸幕府の生命線だったことを誇りに

友野智子（武蔵野市在住）

井の頭恩賜公園開園100周年を記念した「井の頭公園検定」が今年も12月に開催される。今まで4回の受験者総数は661人、そのうち3級か2級に合格した人が延べ641人、そのうち1級まで到達した合格者はわずか19人である。その1級合格者がチーム「あか井の」をつくり、公園の魅力を伝えるガイドとして活躍し始めた。その人、友野智子さんに話をうかがった。

「いのけん」を知ったのはバドミントンでアキレス腱を断裂してしまい、そのリハビリで井の頭公園をウォーキングしていた時でした。公式問題解説集に文化や歴史のことが載っていたので、興味を持ったのです。もともと歴史が大好きで大学で歴史を専攻、イギリスの立教英国学院で歴史を教えた経験があります。

1997年イギリスから中国に香港島と九龍半島が返還されました。あれっおかし。香港島はイギリスに割譲されたのだから、返すべきは租借した九龍半島だけなのに。サッチャーも返す気はなかったようです。ところが鄧小平が「それなら水をとめます」とすごんだとのこと。本土から水を引いている香港、返さざるを得ませんでした。遡ること1967年の第三次中東戦争、イスラエルはエジプトからシナイ半島を、シリアからゴラン高原を奪いました。その後シナイ半島は返還しましたが、ゴラン高原は今でも占領しています。ここはヨルダン川の水源、シリアに抑えられ水を止められたら、多くのイスラエル人が入植しているヨルダン川西岸は干上がってしまうからです。治水は政治上の大きな課題、現代でも紛争の原因となります。

そして井の頭池。ここは江戸の飲料水の水源、神田御上水の源だったのです。徳川家康が数ある水源候補から「関東随一」と評価し選んだのです。井の頭池は、260年の長きにわたる平和を実現した江戸幕府のまさに生命線だったのです。幕府はさぞ厳重に管理したことでしょう。私たち地元民はこの史実をもっと誇りにして、池を大切にしていかなければと思います。

（友野国際特許事務所員、
世界遺産アカデミー認定講師
友野のまゆみ）

（聞き手 川井信良）



川井信良（かわいしんりょう）
70年代80年代「三鷹新聞」に「井の頭公園」や「みたかき」などを発行。



写真 古賀 親宗（こが ちかむね）
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

答えは裏面の
インフォメーションの
ところだよ



第10回

1級渡邊安浩のいのけん受験講座

今回は、テキスト例題からの出題ですが、本文の内容もしっかり勉強して下さい。

- Q1 カピバラのオスがメスをひきつけるものはなんですか？
①繁殖期のおならの臭い ②上手な潜水 ③鼻の上のこぶから出る分泌物の臭い
- Q2 日本に一番最初にやってきたメタセコイアの木は園内のどこにあるでしょう？
①資料館前 ②ヤマドリ舎の横 ③水生植物園（分園）内
- Q3 ミヤコタナゴと命名された理由は何でしょう？
①タナゴを発見した人の名前をつけたから ②発見されたのが東京（ミヤコ）だったから ③宮古島にもいる魚だから

よみがえれ！井の頭池 31

▼ヤゴの羽化殻を丹念に探す「かいぼり隊員」。



春からスタートしたトンボ調査。何が見えてくるのでしょうか。

以前お知らせしたように、今春から「かいぼり隊」の調査項目として、トンボ、水鳥、水草が今春から加わりました。アメリカザリガニの防除活動や水生生物のモニタリングも継続されていますが、今回は、春から夏に行われたトンボ調査に注目します。

調査対象は、ヤゴの羽化殻と成虫。ヤゴは水面から突き出した水草や杭に登って羽化するの、「かいぼり隊員」はフローターで水面を移動し、じっくり観察・記録を繰り返しました。その結果、11種類の羽化殻、13種類の成虫を確認。中でも多く見つかった羽化殻は、コシアキトンボ、オオアオイトトンボ、モノサシトンボでした。かいぼりによってトンボ類も息しやすくなってきたと推測されますが、一シーズンの調査だけでは分かりません。継続することで、種類や数の変化が見えてくるのです。来年も引き続き注目していきます。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。「いのきちさん」は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の三「さん」を並べたものです。（奇数月1日の隔月発行です）



スマートフォン対応

「いのきちさん」のホームページができました！更新中！
<http://www.inokichisan.com/>

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。
✉ inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。



この印刷製品は、環境に配慮した製材工場から製造されています。